

邦楽オペラ～都筑縄文物語～

お月見ライブのために、区制30周年を記念して都筑の古代からの歴史物語を書きおろし和楽器・伝統楽器の音楽と、狂言・舞踊・能楽がコラボした邦楽オペラ「都筑縄文物語」を上演します。

今井尋也さんは、日本の古典と現代の身体性を兼ね備えたパフォーマーとして、国内外の演劇祭や能楽堂の舞台で活躍。小鼓を使って、能の曲の演奏はもとより、幅広い音楽とのコラボを行っています。能の舞台演出を基に民族音楽や現代音楽、民族舞踊やコンテンポラリーダンスなど様々な要素を絶妙にブレンドさせる舞台演出家です。新作邦楽オペラを和楽器、伝統楽器の演奏とともにお楽しみください。

profil ープロフィールー



今井尋也【小鼓】こつづみ

シルクロード能楽会代表。幼少より祖父から能楽を学ぶ。10代で能の舞台で活躍し、国立能楽堂、東京芸大を経てフリーの能役者、小鼓演奏家として、国内外を問わずジャンルを超越して活躍中。古典からジャズまで幅広い音楽性と美しい肉声、迫力の打音で「小鼓」の可能性を極限まで追求している。近年では地方の民話や神話を題材にした新作能の脚本・演出・音楽も手掛けている。
<http://www.megalo.biz>



山浦峰子【箏】こと

(一社)日本和楽器普及協会会員。
和楽器を世界に広めることをライフワークとしてジャンルにとらわれないことなく古典から現代曲、クラシック、Jazzまで幅広く取り組み、洋楽器とのコラボやLiveも手掛ける。本間敏之(ex・虎舞竜)CD「箏弦」収録。山田流師範。唄、パーカッションも手掛ける。



荒井靖水【琵琶】びわ

6歳より祖父 中谷襄水、母 荒井姿水に薩摩琵琶の手ほどきを受ける。洗足学園音楽大学管楽器科卒業。その後NHK邦楽技能者育成会(第42期)にて研鑽を積み、1995年日本琵琶学コンクールにて秀位入賞。現在、古典ならびに現代邦楽を軸に、他ジャンルとの競演を試みている。多くの方に邦楽器を身近に感じていただけるよう様々な場所・シチュエーションで演奏している。



尾引浩志【口琴】こうきん

南シベリア・トウバ共和国に伝わる倍音唱法「ホームイ」、手のひらに入る小さな倍音楽器「口琴」(こうきん)を操る倍音音楽家。倍音楽団「倍音S(バイオンズ)」の活動を経て、2006年には、NHK教育テレビの幼児向け音楽番組「あいのて」にレギュラー出演。現在「KAMOSU(カモス)」、「シルクロード能楽会」、YABAIONZ(ヤバイオンズ)などのユニットで活躍中。コロナ禍に於いて口琴、桶を使った創作楽器「オケジョール」などの楽器製作にも着手。



川野誠一【俳優・狂言師】

大分県出身。1972年生。俳優／大蔵流狂言方。劇団大樹を主宰。大蔵流狂言方／善竹十郎師を師事し狂言を学ぶ。声と身体のワークショップ「狂言処＝う舞謡～」主催。鎌倉／一条恵観山荘・案内人。民族歌舞劇団「荒馬座」39期研修生修了。



© m.yoshihisa

岡 佐和香【舞踏家】

幼少よりバレエを踊る。舞踏を大野一雄、大野慶人、中嶋夏に師事し、自然との交感・交歓をテーマにシャーマニックな舞を追求。舞踏の精神を継承しつつ他の表現ジャンルの探求・交流を通じButohの領域を切り拓く活動を続ける。石の信仰に関心が深く、生まれ故郷の信州やその周辺の旅を重ねる中、夫婦道祖神に纏わる童話や舞を創作。令和元年、穂高神社奉納を機に「わとびら会」を結成、他ジャンルのアーティストや安曇野の方々と共に道祖神に纏わるお祭り公演を続ける。武州里神楽「石山社中」舞方・花神楽舞方をつとめる。



■問い合わせ 横浜市指定管理者
NPO 法人 都筑民家園管理運営委員会
TEL 045-594-1723

〒224-0028 横浜市都筑区大榎西2 大塚・歳勝土遺跡公園内
(最寄り駅：横浜市営地下鉄センター北駅徒歩8分)

(ご注意) 駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。